



# 軽防協ニュース速報

## 2016 年第 1 四半期(1 月-3 月)の伝染病発生状況

2016 年 6 月配信

(International Collating Centre からの情報)

オーストラリアからの報告は、1 四半期遅れて配信されることに注意されたい。従って、以下に、オーストラリアの 2015 年第 4 四半期の報告を記載する。その後、その他の国の 2016 年第 1 四半期の報告を通常の形式で記載する。

オーストラリアの 2015 年第 4 四半期の報告

Animal Health Australia(AHA)

Animal Health Surveillance Quarterly(AHSQ) から編集

<http://www.animalhealthaustralia.com.au/elibrary>

州および準州の報告

オーストラリアでは、州や準州に動物の疾病を管理する責任がある。国の動物衛生プログラムが動物衛生委員会との協議を通じて推進され、オーストラリア動物衛生局(AHA)によって管理されている。

ビクトリア州

ビクトリア州経済開発・雇用・交通・資源省、Karen Moore 氏による報告

メスのサラブレッドの寄生虫性動脈炎

円虫を原因とする寄生虫性動脈炎が、2015 年 10 月に州の南西部のダーリントン近郊で 3 歳牝のサラブレッドの重度沈うつおよび脱水の原因として診断され、その他の 2 頭の死亡原因と推察された。

7 頭のサラブレッド成馬と 2 頭のロバが、8 ヘクタールのパドックで、十分な量の半乾きの刈取り牧草を与えられ繋養されていた。牧草は主に混合牧草で、オニクサヨシ (*Phalaris aquatica*) や、いくつかのツメクサ (クローバー) も含まれていた。雨水をためた堤が唯一の水源であった。この馬たちの駆虫薬の投与歴は不明である。

2 頭の馬が沈うつと下痢を短期間、発症後に続けて死亡した。死亡した 1 頭目は、死の直

前に血便を認めた。翌日生存していた 5 頭中 3 頭に下痢を認め、そのうちの 1 頭は、3 歳の牝であり、重度の沈うつと臭気のある糞便を排泄した。2 頭のロバには病状はみられなかった。

重度の沈うつになったメス馬は家畜銃により安楽死され、剖検が行われた。肉眼所見では、被膜の白濁変色を伴った肝臓腫大、横隔膜表面に多巢性フィブリン塊の付着が認められた。フィブリン塊は盲腸の漿膜面にみられ、盲腸と小腸の粘膜面には分節状に発赤したヒダが観察された。

病理組織学検査では、肝臓の動脈内腔に普通円虫に類似した線虫の幼虫がみられ、その周りには血栓と化膿性浸潤物が伴っていた。線虫の幼虫は大腸の粘膜面にみられた。盲腸内容物の培養では、サルモネラ菌は陰性であった。糞便の虫卵検査は実施されなかった。

寄生虫性動脈炎が診断された後、生存している全頭にモキシデクチンとブランジカンテル含有駆虫薬を投与した。下痢がみられた 2 頭はこの治療に反応し、完治した。

## 西部オーストラリア

### 西オーストラリア州農業・食品省、Jamie Finkelstein 氏による報告

#### ウマの届出伝染病のサーベイランス

オーストラリアが定める馬のさまざまな届出伝染病に関して、DAFWA（西オーストラリア州農業・食品省）の動物福祉サーベイランスおよび診断プロジェクトが、それらの伝染病の臨床症状を示す症例の調査をサポートしている。この四半期では、調査は、ヘンドラウイルス感染症、ウマヘルペスウイルス I 型感染症、馬伝染性子宮炎に限らず、さまざまな届出伝染病に対して実施された。

#### ヘンドラウイルス感染症

馬およびヒトの健康に影響を与え得るヘンドラウイルス感染症の大きな脅威を考慮して、DAFWA は、本感染症を疑う臨床症状を示した馬に対し、ヘンドラウイルス感染の除外検査を常に実施している。この四半期に DAFWA は、州のさまざまな地域で認められた 7 症例で、ヘンドラウイルス感染症を検査により除外した。これらの症例のいくつかでは、ヘンドラウイルス感染症のみでなく、日本脳炎のように類似した症状を示すその他の届出伝染病も除外された。このことは日本脳炎の清浄性に関する我々の証明に寄与し、馬やブタ産業に利益をもたらす。

#### ウマヘルペスウイルス I 型（流産、神経型）

この四半期では、DAFWA は州のさまざまな地域で報告された 5 症例において、EHV-1 の流産および神経型を除外した。馬は神経症状や流産などの EHV-1 感染を疑うさまざまな臨床症状を示していた。

DAFWA は EHV-1 (流産型) が確認されたある症例において、診断をサポートした。EHV-1

は、南西部の農業地域の施設の 9 歳の牝馬で確認され、妊娠中期に流産した。この施設では、この牝馬 1 頭のみが感染し、臨床症状と抗体価の上昇により EHV-1 による流産と診断された。迅速な調査を通じて、DAFWA は、担当獣医に対して、当該施設の病気の影響を減らすための管理実務を助言した。

### 馬伝染性子宮炎 (CEM)

2015 年 12 月、民間の獣医が、数頭の牝馬が妊娠しなかった南部の農村地域で、ある症例を調査した。病歴と臨床検査により 2 頭の牝馬が 14 日間の妊娠後、すぐに流産したことが明らかになった。超音波検査により、交配後の数頭に子宮内に過剰な液体貯留が明らかになった。

この症例では確定診断はできなかったが、*Taylorella equigenitalis* が原因である CEM は培養検査により除外された。CEM のような報告すべき病気のサーベイランスおよび除外が、オーストラリアの馬の健康状態を守るために重要である。

オーストラリアは 1980 年から CEM 清浄国である。CEM が持つ馬生産界への大きな潜在的影響を考慮して、多くの国が CEM の侵入を防ぐために輸入条件を導入しており、オーストラリアの馬生産産業は CEM フリーとして国際的に輸出可能な状況から利益を得ている。

### ニューサウスウェールズ州

報告事項なし。

### クィーンズランド州

報告事項なし。

### タスマニア州

報告事項なし。

### サウスオーストラリア州

報告事項なし。

### ノーザンテリトリー州 (北部準州)

報告事項なし。

## 2016 年第 1 四半期の報告

アルゼンチン

### ウマヘルペスウイルス I 型 (EHV-1) による流産

EHV-1 型流産が 1 例、2016 年 3 月 11 日にサラブレッドで報告された。その牝馬は 50 頭の牝馬が繋養されている施設で 20 頭の妊娠馬グループの中で繋養されていた。それらの馬は妊娠 5、7、9 ヶ月目に Pneumoabort K ワクチンを接種されていた。診断は PCR により確認された。

### オーストラリア

冒頭で述べたように、2015 年第 4 四半期の報告は上述のとおりである。

### カナダ

#### 馬伝染性貧血 (EIA)

2016 年 1 月 1 日から 4 月 31 日の間に、サスカチュワン州で 2 頭の EIA 陽性馬が確認された。それらは、互いに関連のない別々の施設で繋養されていた。感染のあった施設の 1 つは、継続中の疾病調査の一部として含まれており、EIA 感染馬は、その通常の調査活動の中で同定された。もう 1 頭の陽性馬は、2013 年に EIA があった施設と疫学的に関連があった。

### チリ

報告事項なし。

### デンマーク

報告事項なし。

### チリ

報告事項なし。

### フランス

(馬感染症疫学監視ネットワーク RESEP からの情報)

#### ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による流産

EHV-1 による流産がフレンチ Trotter (1 頭) とフレンチサドルブレッド (1 頭) を含む 4 頭で確認された。これらの発生はカルヴァドス県、マース県、オルヌ県、セヌ・マリティーム県で起こった。陽性診断は PCR により行われた。

#### ウマヘルペスウイルス I 型 (EHV-1) による神経疾患

2016 年 1 月 22 日に EHV-1 による神経疾患がロワール・エ・シェール県で確認された。罹患馬は 7 歳のフレンチサドルブレッドポニーの牝馬である。その馬は発熱および運動失

調、食欲不振、鼻漏、発咳の臨床症状があった。陽性診断は血液による PCR が行われた。この症例は 2016 年 2 月 5 日に呼吸器症状が確認された症例と疫学的に関連していた。

#### ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による呼吸器疾患

2016 年 2 月 3 日に EHV-1 による呼吸器疾患が、カルヴァドス県で 3 頭のサラブレッドで確認された。3 頭の罹患馬は発熱の臨床症状が認められ、隔離された。2 月 19 日にはさらに 1 頭が、鼻腔スワブの PCR 検査で陽性と診断された。

2 月 5 日に EHV-1 による呼吸器疾患が、ロワール・エ・シェール県の乗馬学校で 12 歳のメスのフレンチサドルブレッド 1 頭に確認された。診断は血液を用いた PCR で行った。この症例は 2016 年 1 月 22 日に神経症状が確認された症例と疫学的に関連していた。

2 月 26 日に EHV-1 による呼吸器疾患が、パ・ド・カレー県の乗馬学校で 1 頭に確認された。罹患馬には発熱および鼻漏、発咳の臨床症状がもう 1 頭の罹患馬とともに見られた。陽性診断は鼻腔スワブによる PCR 検査で行われた。

#### ウマヘルペスウイルス 4 型 (EHV-4) による呼吸器疾患

EHV-4 による呼吸器疾患が、12 件発生し (1 頭のみ発生が 10 件、2 頭発生が 1 件、3 頭発生が 1 件)、その中にはフレンチサドルブレッド (2 件)、コネマラ (1 件)、サラブレッド (1 件) が含まれていた。これらの発生は、ドローム県、ウール県、ウール・エ・ロワール県、ジュール県、ロワール・アトランティック県、マンシュ県、マイエンヌ県、オルヌ県、ソーヌ・エ・ロワール県およびヴェンデ県で起こった。罹患馬は発熱、鼻漏、発咳、呼吸器症候群およびリンパ節腫脹を含むさまざまな臨床症状を示した。全ての発生で、鼻腔スワブもしくは気管洗浄液の用いた PCR により陽性診断を行った。

#### ピロプラズマ病

フランスでは依然として風土病である。

#### 腺疫 (*Streptococcus equi*)

2016 年の第 1 四半期で、腺疫の発生が 16 件で報告され (1 頭のみ発生が 9 件、2 頭発生が 3 件、3 頭発生が 1 件)、フレンチサドルブレッド (3 件) およびポニー (2 件)、アラブ (1 件)、アングロアラブ (1 件)、アメリカンクォーターホース (1 件)、アイリッシュスポーツホース (1 件) が含まれていた。これらの発生は、アリエージュ県、ブーシュ・デュ・ローヌ県、ジロンド県、エロー県、イル・エ・ヴィレーヌ県、アンドル＝エ＝ロワール県、ロット県、マルヌ県、セーヌ・エ・マルヌ県およびイヴリーヌ県で起こった。罹患馬はリンパ節腫脹、発熱、鼻漏、食欲不振、嗜眠および発咳といったさまざまな臨床症状を示した。陽性診断は PCR もしくは細菌培養で行われた。

## ドイツ

報告事項なし。

Dr.Boese 研究所有限会社 (HBLB の CEMO 認定研究所) による追加結果

### 馬伝染性子宮炎 (CEM)

2016年の第1四半期に、CEMが種牡馬(4頭)および1頭の牝馬を含む5頭で確認された。陽性診断は種牡馬では生殖器スワブによるPCRおよび培養により、牝馬では生殖器スワブによるPCRで行われた。

### ウマヘルペスウイルス1型 (EHV-1)

2016年の第1四半期に、EHV-1が11ヶ所の異なる施設で12頭確認された。鼻腔スワブを用いたPCRにより診断された9頭では、臨床所見は入手できなかった。EHV-1による流産が胎子の肺穿刺吸引液および牝馬の悪露によるPCR検査により3頭で確認された。

### ウマヘルペスウイルス4型 (EHV-4)

2016年の第1四半期に、EHV-4が6ヶ所の異なる施設の10頭の子馬に確認された。陽性診断は鼻腔スワブによるPCRにより行われた。臨床所見は、1頭の子馬のみで入手でき、発熱、呼吸器疾患および食欲不振がみられた。

### 馬ウイルス性動脈炎 (EVA)

EVAが、2016年の第1四半期に2ヶ所の異なる施設の2頭の種牡馬で確認された。陽性診断は、精液のPCRおよびウイルス分離により行われた。

### ロタウイルス

ロタウイルス感染症が2016年の第1四半期に1頭の子馬で疑われた。臨床所見は入手できなかった。陽性診断は、糞便サンプルの抗原検出ELISAにより行われた。

### サルモネラ

サルモネラ感染症が2016年の第1四半期に1頭確認された。陽性診断は糞便サンプルのPCRおよび細菌培養により行われた。臨床所見は入手できなかった。

### 腺疫 (*Streptococcus equi*)

腺疫が、2016年の第1四半期に、牝馬1頭で疑われたが、臨床所見は入手できなかった。陽性診断は、鼻腔スワブのPCRおよび培養により行われた。

## 香港

報告事項なし。

## アイルランド (共和国)

### ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による流産

13 頭の EHV-1 による流産症例が 2016 年の第 1 四半期に報告された (コーク郡 (2 頭)、ダウン郡 (2 頭)、キルデア郡 (2 頭)、ラウス郡 (2 頭)、ミース郡 (1 頭)、モナハン郡 (1 頭)、オフアリー郡 (2 頭)、ウォーターフォード郡 (1 頭)、ウィックロー郡 (1 頭))。この症候群に関連する臨床所見は入手できなかった。

### 腺疫 (*Streptococcus equi*)

11 頭の腺疫が 2016 年の第 1 四半期に報告された (レインスター (9 頭)、マンスター (2 頭))。

## イタリア

報告未着。

## 日本

### ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による流産

EHV-1 による流産の発生が、2016 年 1 月 3 日に最初に確認され、2016 年 3 月 19 日に今四半期の最後の症例が報告された。19 戸 51 頭のサラブレッドが感染し、全ての馬はワクチンを接種されていた (訳注：正しくは、一部の馬はワクチン未接種であった)。診断は北海道日高家畜衛生保健所および北海道胆振家畜衛生保健所で実施された。

## ニュージーランド

報告事項なし。

## シンガポール

### 腺疫 (*Streptococcus equi*)

2016 年 1 月 6 日に発生が報告され、最終症例は 1 月 15 日であった。全部で 9 頭の馬が検疫施設に隔離され、最近輸入された 4 頭の陽性馬および接触のあった 5 頭に臨床症状が疑われた。腺疫はシンガポールでは届出伝染病であり、監督当局 (AVA) から移動制限が課され、防疫措置がとられた。1 日 2 回の体温報告が義務付けられ、馬のスイミングプールは閉鎖され、疑わしい臨床症状の馬は検疫された。検疫中の馬は最低でも 3 週間、全身性および喉嚢内を局所的に治療された。隔離中の全馬で、2 回の連続した鼻咽頭スワブと両側の喉嚢の洗浄が実施された後、隔離命令は解除された。AVA からの隔離命令は 2016 年 4 月 6 日に解除された。

## 南アフリカ

### ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) とピロプラズマ病

多数の馬と 1 頭のロバで、PCR 検査において馬ピロプラズマ病 (*Theileria equi*) が陽性であった。2 頭の馬が急性に死亡した。他の 2 頭の馬に発熱と鼻漏がみられた。これらの 2 頭は同時に EHV-1 に陽性であった。突然死および死後の状況により、アフリカ馬疫と馬脳症ウイルスが鑑別診断として重要である。両疾病ともプレトリア大学の馬研究センターで行われた RT-qPCR により除外された。

## 韓国

報告未着。

## スペイン

報告未着。

## スウェーデン

報告未着。

## スイス

### 腺疫 (*Streptococcus equi*)

2016 年 4 月 23 日に腺疫 1 例が確認され、菌分離により診断された。

### ピロプラズマ病 (*Babesia caballi* & *Theileria equi*)

2016 年 1 月 21 日にピロプラズマ病 1 例が報告された。確定診断は血清学的診断であった。

## オランダ

報告事項なし。

## アラブ首長国連邦 (UAE)

報告事項なし。

## イギリス

イギリスの症例や発生報告は、第 4 四半期以降の中間臨時報告として既に発表していることに注意されたい。腺疫はイギリスの馬では風土病となっている。



## アメリカ合衆国

### クロストリジウム腸炎

2016年第4四半期の間、いくつかの独立した *C. perfringens* 毒素 A 型による腸炎の発生が認められ、全部で 11 頭が罹患した。

### ウマヘルペスウイルス (EHV) による疾患

EHV-1 および EHV-4 のよる疾病がさまざまな州で広範囲に認められた。離乳子馬の呼吸器病は、主に EHV-4 感染によるものであった。EHV-1 による流産が 3 例で診断され、1 例はケンタッキー州、2 例がジョージア州であった。全部で 8 件（訳注：以下の各州の発生数の合計では 9 件となる）の EHV-1 による神経疾患が 2016 年の第 1 四半期に発生した。本疾病は競馬場および乗馬厩舎、生産牧場、獣医大学、イベントで確認され、EHV-1 の神経病原性株と非神経病原性株の両者が関与していた。本疾病はペンシルベニア州（1 件）およびニューメキシコ州（2 件）、カリフォルニア州（2 件）、イリノイ州（1 件）、ジョージア州（1 件）、アリゾナ州（1 件）、フロリダ州（1 件）の施設で確認された。

### ウマヘルペスウイルス 2 型および 5 型 (EHV-2、EHV-5)

フロリダ州およびケンタッキー州において EHV-2 および EHV-5 の発生が少数報告された。

### 馬瘡疹

ケンタッキー州において EHV-3 感染が 1 例報告された。

### 馬伝染性貧血 (EIA)

ニューヨーク州の 1 施設で 10 頭中 5 頭に馬伝染性貧血が報告された。

### 馬インフルエンザ (EI)

馬インフルエンザはアメリカ合衆国では風土病である。疾病の発生はカリフォルニア州およびフロリダ州で報告された。

### 馬増殖性腸症 (*Lawsonia intracellularis*)

育成馬で *Lawsonia intracellularis* による感染が 3 例報告された。

### レプトスピラ症

ケンタッキー州において 11 例のレプトスピラ症による流産が報告され、大半は *L. pomona* 血清型 *kennewicki*（訳注：詳細な分類は *Leptospira interrogans* 血清群 Pomona 血清型 Kennewicki）によるものであった。

### ノカルジア性胎盤炎および流産

ケンタッキー州でノカルジアによる胎盤炎が少数報告され、*Amycolatopsis* spp もしくは *Crossiella* spp によるものであった。

### 狂犬病

狂犬病が 2 例報告され、1 例目はサウスカロライナ州、2 例目はフロリダ州であった。

### ロドコッカス・エクイ感染症

ロドコッカス・エクイ感染症はアメリカ合衆国では風土病である。多くの症例は報告されないので、2016 年第 1 四半期中の発生件数の概算を出すのも困難である。

### ピロプラズマ病 (*Theileria equi*)

ニューメキシコ州の施設でクォーターホース 1 頭に *Theileria equi* によるピロプラズマ病が報告された。

### 腺疫 (*Streptococcus equi*)

腺疫はアメリカ合衆国では風土病である。この疾病は 14 州の 42 施設で報告されており、8 州では複数の発生が確認された。罹患馬の推定頭数は 58 頭であった。

### サルモネラ感染症

2016 年第 1 四半期にサルモネラ感染症の発生が報告され、6 件が B 群 *Salmonella* 属菌、6 件が群不明の *Salmonella* 属菌によるものであった。

### 水胞性口炎 (VS)

2015 年～2016 年にかけて発生した本疾病の最終発生は 2016 年 2 月 10 日に報告された。今回の流行が発生した 8 州 (アリゾナ州、コロラド州、ネブラシカ州、ニューメキシコ州、サウスダコタ州、ユタ州、テキサス州およびワイオミング州) すべてで、ニュージャージー血清型ウイルスが同定された。VS 感染施設の最終集計は 823 施設であり、そのうち 2016 年第 1 四半期は、3 施設で全てコロラド州であった。全体のうち 329 施設がウイルス陽性施設であり、494 施設では臨床的に診断されたがウイルス学的には確認されなかった。

### ベネズエラ

報告未着。